



日刊 千葉労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)

電話 (鉄) 千葉 2935・2936 番
(公) 千葉 (22) 7207 番

91.11.6 No. 3488



・帰還歓迎式典粉碎へ、全国から結集した労働者、市民、掃海艇部隊に怒りのシュプレヒコールがあびせられた!

呉、横須賀連続闘争を闘いぬく!

歓迎式典吹っ飛ばした10.30

11.1.2闘争

帰還弾劾海上デモを叩き

動力千葉青年部長・佐藤正和

十月三〇日の呉における闘いの大爆発、大勝利を引き継いで、十一月二日、横須賀においても掃海艇帰還を弾劾する海上デモと横須賀市内での集会とデモが闘い取られました。

動力千葉青年部は、反戦共同行動委員会に結集する労組交流センターをはじめとする労働者、学生、市民と共にこの海上デモに参加しました。

今ここで闘わなければ、掃海艇の次はカンボジアへの派兵などますますエスカレートすることは明らかです。「いつか来た道」を二度と繰り返さないためにも頑張らなくてはなりません。

「自衛隊員を暖かく迎える」というのは嘘です、この次は死んでいくということになる」と呉の集会での話を思い出しながら、目の前の掃海艇に、船の上からシュプレヒコールを叩きつけてきました。

反戦自衛官の闘いに連帯しながら、十一月臨時国会闘争へ総決起しよう。

掃海艇に肉迫して抗議を行う交流センターの海上デモ隊



呉港に入る掃海艇部隊 (写真中央の船)

掃海艇反戦自衛官が烈々と訴え!

中央公園までデモを行う。中央公園での集会では、レセプション会場に向かって「自衛隊の軍事作戦弾劾」「派遣の張本人・海部は返れ」と圧倒的シュプレヒコールが叩きつけられた。とりわけ、印象的だったのは、会場から出てくる隊員に向かって反戦自衛官三名が「みんな自分がどんなことをしてきたのかを考えてほしい。憲法違反の海外出兵が何を意味するのか、再びアジア人民に銃を向けるのか、家族がどう思っているのかを。再度こんなことが起こったならば命令を拒否してわれわれの側に結集して欲しい」と心から訴えた時だった。どの隊員も振り向き、一様に思いをはせたようだった。

政府・自民党が強行した掃海艇の派遣は、完全に失敗したのである。さらに、第二段階の闘いとなる、PKO臨時国会闘争に全力で立ち上がり、廃案に迫込むために、国論を二分する闘いを展開しよう。再び侵略の銃を取るのか、一人一人が問われている。

十・三〇掃海艇帰還弾劾呉現地闘争に、動力千葉も交流センターの仲間と共に代表派遣で参加した。政府・自民党が画策した、歓迎式典を提灯行列や軍艦マーチ一色で塗り潰すことは、広島交流センター等が中心となって行った署名活動・街頭宣伝・市当局への抗議行動などで断念せざるを得ず、闘う側の勝利を確信することができた。

三〇日、朝九時に呉到着。すぐに潜水艦棧橋前の集會に合流し、歓迎式典のためだけに停泊(三日前にすでに到着)していた掃海艇が入港してくるところへ、地元漁民も参加した海上デモ隊九隻に交流センターの労働者、学生、市民などが乗り込み、怒りのシュプレヒコールを浴びせた。

海上デモ隊と集會参加者の迫力の前に、歓迎式典会場からは何の音も聞こえてこない。その後、掃海艇隊員に対する政府主催のレセプションが行われている会場前にある呉中